

## ◆ 2022 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：あさか環境市民会議

25A-27

代表者：会長 藤井 由美子(代理 明山 弘)

URL : <https://asaka-kankyo.1web.jp/>

### 1. 活動が必要とされた状況

あさか環境市民会議の理念「1. 環境にやさしいまちづくりを考えよう。2. 身近な自然を守り、環境に配慮した行動をしよう。3. 情報の輪をつなげよう。4. 仲間と一緒に楽しく行動しよう。」に基づき多様な環境問題に取り組む中、里山管理の活動は、会しての取り組むべき課題として多くの賛同を得ている。朝霞市の公共財産である特別緑地だが、崖地の斜面林で手入れを怠るとシュロ、アオキ等の繁茂で林床が覆われ、多様な植生が失われてしまう。生物の多様性や、市民の憩える場所とするには、恒常的な保全活動が必要だった。



### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

朝霞市の所有緑地や借上げている管理地で、旧来の武蔵野の雑木林の再生を願って保全活動に務めている。特別保全地区に指定されている岡緑地、宮戸緑地、郷戸緑地の保全に関して、市と協議の上、下草刈り、枝おろし、間伐、枯れ倒木の処理など適切な保全活動により、在来種の再生を目指している。3ヶ所の緑地で、毎月第2～4火曜日を定例活動日とし、ほぼ通年の活動としている。4月～12月の参加人数は、岡緑地7回で84名、宮戸緑地7回で64名、郷戸緑地11回で131名。竹林整備のための筍除去活動の時期に参加数が多くなるが、通常10数名程度が参加している。



ヤマブキシウの復活

### 3. 活動の成果

昨今、リモート勤務者が身近な自然を感じるために参加するなど、理由は様々だが自然環境に目を向けてもらえている。また、以前は、筍掘りを会員募集のためのPRに活用していたが、昨今の状況で一般公募開催ができないのが残念である。管理放棄され、不法投棄された場所に、多様な在来種も復活してきた。オオブタクサなど外来種の侵入を早期に除去して蔓延を防いでいる。宮戸緑地の沿道はニリンソウ、ヤマブキシウ、ヤマユリ、キツネノカミソリなどが見られることから散策者も多い。沿道上部に伸びた小枝は通行に支障を来すので、高枝はさみ、高枝電動のこぎりが、その整備に威力を発揮している。



木陰でリフレッシュ

### 4. 今後に残された課題

首都圏の近郊と言われていたが、農地の宅地化が進み、もはや首都圏に飲み込まれた様相を呈している。反面、若い人が住み着いて、身近に有る自然に興味を持ち、保全活動の戦力になってもらえる期待も持てる。多様な生態系の復活を促し、良好な環境を保持しながら、豊かな自然を多くの市民とどのように共有できるかが課題である。